

議員のなり手不足は若者にチャンス 二四歳の私が見た浦幌町議会改革

「なり手不足の現実浮き彫り、浦幌町議選定数割れ」――。二〇一五年四月の町議選の結果が地元紙の見出しをかざった。統一地方選挙で定数割れた全国四町村の一つが浦幌町だった。この選挙は議員定数を一人から一人に減らしての初の選挙だったが、それでも定数割れたため、選挙後の浦幌町議会は、議員のなり手不足を検証し対策を検討している。検証項目は、①選挙制度②議員報酬③選挙費用④議会活動⑤地域割⑥しごと(兼業など)⑦若者・女性⑧後継者⑨人口減少⑩政治の無関心⑪その他、と多岐にわたる。

このなり手不足解消に向けた検証の取り組みが評価された浦幌町議会は、二〇一七年マニフェスト大賞の最優秀成果賞を受賞した。このことで、当初は議員のなり手不足対策は議員自ら対抗馬を増やすことになるので違和感があったが、一方で地方議員のなり手不足は全国的な問題だということに大きな衝撃を受けた。そして取り組みそのものは今後の町議会の存続にとって非常に重要なものだと思うようになった。

いま私は、議員のなり手不足は、確かに議会のピンチであるがチャンスでもあると考えている。仮に議員のなり手が多いとすれば、高齢者が多い

日本の人口構造では、若者が直接政治の世界に飛び込める可能性は低くなる。だから、なり手不足という状況は、若者が立候補して政治に直接関わることのできるチャンスなのではないか。ひとつころ学生団体のSEALDsのデモや集会が話題となったが、自分たちの意思を「デモ」というかたちのほかに、議員選挙に立候補して直接政治の現場に参加するかたちがあると思う。

知識と経験の浅い私のような若者が政治に飛び込むのは、これまでの常識から見ても驚かされるのかもしれない。しかし、若者が政治に参加することができなければ、これからの自治体や社会に未来はないと思っている。なり手がいない状況であっても、選挙は簡単なものではないことは理解しているが、いまだからこそ、若者は政治に目をむけ、自らの意思と声を政治に反映させ、町を再生していく姿勢を見せたいことが大切ではないか。

なり手不足は、若者が議会に飛び込むチャンスであり、議会改革のチャンスにもなるが、一方、若者は政治や議会というものがどのようなものか理解したいのも事実である。私も以前から関心は持っていたものの、議会の現実や議員の方の話などを聞く機会がないことに困っていた。そこに、

浦幌町議会事務局から「自治体議員をめざす人のための自治講座」(主催・北海道地方自治研究所、企画協力・議会技術研究会、二〇一八・七・一四)を教えてもらい参加した。

講座では、現職の議員、これから議員をめざす人、様々な知識を持った講師の話聞き、また参加者と講師の意見交換もあり、自分の悩みやわからないことを聞くことができた。このような機会は、若者の政治離れや政治への無関心が大きな課題となつている昨今、非常に重要なものである。そして、なにより議員になりたいと思つた際にこのような場があり、そしてこのような場があるという情報提供してくれた町議会事務局の方に感謝している。今後、私も微力ながらこうした活動に協力させていただき、様々な課題解決につなげていきたい。

今年浦幌町議会では独自に、選挙への立候補の有無は別として、議会や議員活動など町政に関心を持つてもらうため、希望者に個人研修会を行っている。私もこの研修会に参加し、議会の仕組み、町の財政や計画、議員立候補の手続きまでを、五回のカリキュラムで丁寧に教えていただいている。なり手不足というピンチから、議会改革の流れができてきた。未来を担うのは若者である。二五歳以上であれば等しく、誰でもが自治体議会議員の選挙に出て、直接有権者に思いを訴えるチャンスがある。若者が政治に参加する流れをつくるため、失うものが少ない若いときだからこそ、何事も恐れずチャレンジしようと思意している。

へぬまお まさや・浦幌町民